

1 単元の概要

単元名 浮世絵の魅力を伝えていこう！

鑑賞文「神奈川沖波裏」の読み取りを基に、自国の伝統絵画である浮世絵のいくつかの作品について、「初めて見る人にもその良さを感じてもらおう」をテーマにして、浮世絵の魅力を国内外問わず広く多くの人に伝えられるような「書く」活動を行い、単元の終わりに留学生に発信したり美術館に展示してもらったりする予定です。

	目標	評価規準	評価資料
知識技能	・伝えたいことを伝えるための語彙や表現を考えて使用することができる。【(1)ウ】	・筆者の意図や、表現技法・工夫について文章から指摘している、 ・適切で伝わりやすい語句や表現を選んで文章が書かれている。	・読み取りシート ・作成した鑑賞の手引き
思考判断表現	・鑑賞文における筆者の表現の仕方や工夫を読み取ることができる。【Cウ】 ・浮世絵を初めて見る人にも伝わるように、より多くの人にその魅力を伝える「鑑賞の手引き」（ミニ鑑賞文）を表現の効果をj考えて書くことができる。【Bウ】	・伝えたい作品の良さが明確に焦点化され、その良さが上手く伝わるような具体的な説明や表現の工夫がなされている。 ・他者の鑑賞手引きからより効果的な説明や表現などを見出している。	・書くための準備シート ・作成した鑑賞の手引き
主体的に学習に取り組む態度	自国の文化、浮世絵に興味を持ち、意欲的にその魅力を見つけ、伝え合おうとしている。	・書く前の準備シートに浮世絵作品について多くの気づきを書いたり、交流の場で鑑賞の手引きについて積極的に意見を述べたりしている。	書くための準備シート 交流時のコメント

2 単元の展開

単元の流れ（全5時間）

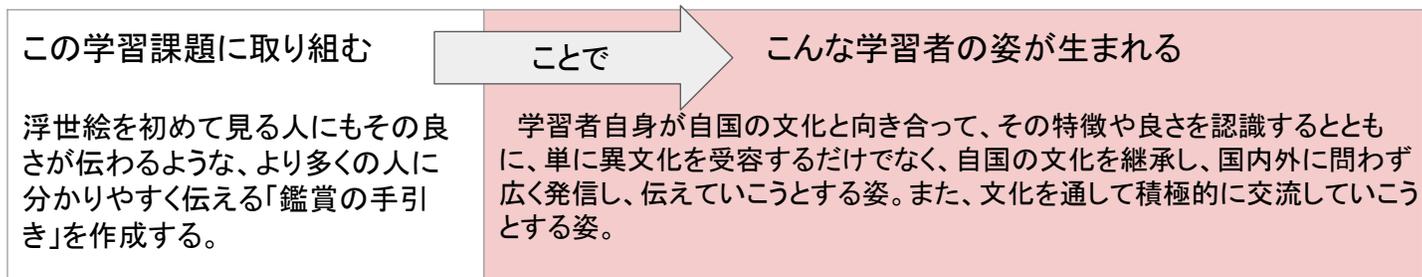
1	・北斎や浮世絵について知る。 ・鑑賞文「神奈川沖浪裏」を読み、文章の概観を確認する。
2	・筆者の意図・効果的に表現するための工夫や特徴等を確認し、自分の表現に役立てるための鑑賞文の読み取りを行う。
3 4	・用意された7枚の浮世絵の中から書きたい作品を選び、文章を書くための準備をした後、その魅力を伝える鑑賞の手引き(300～500字程度の短い鑑賞文)を作成する。(A4の1枚のスライドにする)
5	・他の人の作品を読み、交流し、より 魅力の伝わる鑑賞の手引きを選ぶ。 ・後日大学生の留学生と交流し、感想を聞く。

本時（5 / 5時）の流れ

本時の目標:「鑑賞の手引き」を共有し、グループの中で推薦の「鑑賞の手引き」選ぶことを通して、より良く伝えるための表現や書き方について考え、検討する。

1. 本時の学習活動の目標と進め方とを知る。(3分)
2. 各個人でグループのメンバーの鑑賞の手引きを読み、夫々の作品の良い点をメモし、良いと思う作品を選ぶ。(15分)
3. グループでより効果的に魅力が伝わる鑑賞の手引きについて意見交換し、グループでの推薦の鑑賞の手引きを選ぶ。(15分)
4. グループで選んだ鑑賞の手引きについて、選んだ理由と共に、作品を発表してもらい、全体で共有する。(10分)
5. 授業のまとめ:教師の講評と生徒のふりかえり(5分)

本授業で育てたいグローバル・コンピテンス



焦点化して育みたいグローバル・コンピテンス

定義	<p>【グローバルな問題の発見・検討】 地域、世界、異文化間の問題を検討し、</p> <p>【異文化・他者理解】 他者の視点と世界観を理解し認め、</p> <p>【異文化間交流】 異なる文化を持つ人々とオープンで適切で効果的な関わりを持ち</p> <p>【企画・行動】 共同体の幸福(ウェルビーイング)と持続可能な開発のために行動する能力</p>			
要素	知識	スキル	価値観	態度
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理的知識 2. 歴史的知識 3. 社会・文化的知識 4. 経済的知識 	<p>異文化間コミュニケーションや、グローバルな問題の解決、批判的思考などのスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.異文化間コミュニケーションスキル 2.問題解決スキル 3.批判的思考スキル 	<p>異なる文化を持つ人々との協力と対話を促進する価値観</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公平性と公正性 2. 持続可能性 3. 平和(対話・協力・共存) 	<p>異文化、他者への理解と尊重を深める積極的な態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開放的で柔軟な態度 2.他者を尊重する態度 3.社会的・環境的責任を果たす責任感

【補足】教材の設定にあたって

【ねらい】

○母語や自国の文化についての認識を深め、明確なアイデンティティを身に付けるシリーズとして、1学期に杉浦日向子さんの「江戸の粋」について書かれた文章を読み、表面的な言葉の意味だけでなく、この抽象的な言葉の概念について考えた。さらに具体的な事柄(体験)からの実感を通してその言葉をとらえるため、夏休みに現代にも感じられる「江戸の粋」を身の回りから探して文章にすることを課題とした。その一連の流れとして、江戸の文化の代表である浮世絵についての文章をとりあげ、自国の文化や言葉についての認識を深め、自身の文化や習慣を世界にむけて発信できるような力へつなげていきたい。

同時に、浮世絵という絵画は、学校の美術でもほとんど扱われることなく、自国の文化・芸術の一つであるが、生徒達にとっては、西洋絵画以上に、未知の世界のもの、なじみのないものとも言える。むしろ異文化に近い存在とも言える一面も否定できない。だからこそ、生徒自身がまず浮世絵を受容し、その魅力を感じる事がグローバルコンピテンスを育む上でも意義のあることといえる。

○「神奈川沖波裏」という教材文を「書く」ために読み、広く多くの人に作品の良さを伝えられるよう効果的に「書く」ことをねらいとする。初めて美術館でその絵を見た人が、専門の知識がなくてもその絵を楽しめるような鑑賞の手引きを作成することをコンセプトとする単元である。実際に単元の最後に実際に海外の人に向けて発信したり、美術館に展示してもらったりして実社会に生かす形にしていくことを念頭に文章を書く。

【教材について】

○赤瀬川さんの浮世絵の鑑賞文は、専門的・理論的な硬い文章というより、作品の魅力について語る柔らかい文体であるので、生徒にとって読みやすく、それを参考にして書きやすい。

○北斎は世界的にも有名であり、中でも「神奈川沖浪裏」は浮世絵の中でも海外で最も知名度が高いと言われるほどよく知られている。海外で鑑賞の対象として受け入れられただけでなく、ジャポニズムの中で浮世絵が、ヨーロッパの芸術へ与えた影響は絵画の世界にとどまらない大きいものだったと言われてい。生徒達にそうした自国の文化の魅力を感じ、自ら発信していく力をつけさせたい。

○生徒達が書く「鑑賞の手引き」に使用する浮世絵は以下の観点を規準として選んだ。①どんな場面か、あるいは人物の行動が明確である。②都内のできるだけ生徒達になじみのある場所が描かれているもの。③北斎ブルーといわれる色彩や描き方に特徴が見られるもの。